

琵琶湖から世界に発信！



国際シンポジウム2022 “未来につなぐ湖沼の価値”

国際湖沼環境委員会（ILEC）は2022年10月15日（土）に湖沼分野で国際的に著名な科学者や専門家から成るILEC科学委員（6カ国、7名）を迎え、国際シンポジウム2022 “未来につなぐ湖沼の価値”をハイブリッド形式（会場：琵琶湖博物館ホール / ライブ配信）で開催しました。

2022年3月にナイロビで開催された国連環境総会（UNEA5.2）での決議「持続可能な湖沼管理」に加え「今後の資源利用の展開」に向けては、「琵琶湖モデル」に象徴される住民と一体となる取組が重要です。そこで今回は、エコツーリズムを切り口に若者や市民が湖沼の価値を再認識し、持続可能な湖沼管理の一層の発展について理解を深められるよう、湖沼の価値を守り、高めるための取組を共有・議論し、世界に発信しました。

本イベントには会場とオンライン合わせて世界20ヶ国より175名の参加がありました。ご参加いただきました皆様には感謝申し上げます。



◎国際シンポジウム2022 開会挨拶の概要



<竹本和彦 ILEC理事長>

国連環境総会（UNEA5.2）での「持続可能な湖沼管理」の決議は、今後の湖沼管理に向けた画期的な進展です。今こそ、すべての利害関係者が、持続可能な湖沼管理を実現する目標に向けて行動を加速する時です。市民の皆様が湖沼環境の価値を理解いただくことは非常に重要です。



<三日月大造 滋賀県知事（ビデオメッセージ）>

琵琶湖は私たちの暮らしを映す鏡であり、琵琶湖はその中だけを綺麗にしても決して輝くことはありません。琵琶湖の周りに住む我々が、湖沼環境のために生活を見直すことが必要です。琵琶湖を守ることは私たちの暮らしを見直すことでもあります。

◎第1部 湖沼のエコツーリズムコンテスト（最終審査会）

観光推進の取組を通じ、持続可能な湖沼管理に貢献する人材育成を目的に、若い世代からのエコツーリズムの提案を通じて、湖沼の価値を発見し、それらを活用しながら環境改善につなげる「湖沼のエコツーリズムコンテスト」を開催しました。本コンテストには8件の応募があり、一次審査を通過した4組が発表を行い、最終審査と表彰を行いました。

また、参加賞の中から優秀な提案に対してILEC賞を授与しました。

〔審査員〕

- 平安女学院大学教授（ILEC理事）・審査員長 山本 芳華 氏
- 公益財団法人びわこビジターズビューロー会長 川戸 良幸 氏
- 滋賀県立琵琶湖博物館副館長 亀田 佳代子 氏
- 滋賀県琵琶湖保全再生課長 中嶋 洋一 氏
- ILEC科学委員会委員 アジット・パットナイク氏（インド）
- ILEC科学委員会委員 アレハンドロ・ファレス氏（メキシコ）

視聴者賞特別審査員



会場・オンライン参加の皆様

審査結果	所属	タイトル
最優秀賞※1 および視聴者賞※2	成安造形大学	「たどる」を「たのしむ」エコツーリズム
優秀賞	NPO法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA) 京都外国語大学	びわ湖の研究者になろうツアー
優秀賞	立命館大学	トレイルランから始まるエコツーリズム
特別賞	一般社団法人SwitchSwitch	400年の歴史を体感する！ 伝統漁法サスティナブルツアー
ILEC賞（参加賞）	びわこ豊穡の郷、立命館大学	ホテルの飛翔する川づくりを取り入れた、滋賀 県の魅力を広めるエコツーリズム
参加賞	近江うららかなネット・神戸大学	ヨシ・ツーリズム
	滋賀県立大学	若者にとって三方よしのエコツーリズムとは？
	京都産業大学	外来種を利用して地域経済の活性化と新しい食 文化の開発をする。

※1 最優秀賞受賞チームは、来年秋に開催される第19回世界湖沼会議（ハンガリー・バラトン湖）に参加します。

※2 視聴者賞は、本イベント参加の皆様（会場・オンライン両方）のリアルタイム投票で決定しました。

コンテスト総評 <山本芳華 審査員長>

どの発表も次世代を担う若い斬新な発想で、湖沼の価値をさらに磨き上げられるすばらしいエコツーリズムの提案でした。ここからエコツーリズムそのものの概念も、また一歩発展するのではないかと期待しています。



◎第2部 国際シンポジウム2022 “未来につなぐ湖沼の価値”

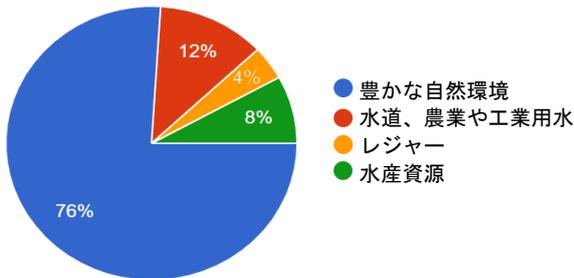
基調講演では、今年7月に認定された世界農業遺産『琵琶湖システム』や海外におけるエコツーリズムと湖沼環境保全についての話題提供がありました。

“湖沼の文化的サービスの持続可能な利用”をテーマとしたパネルディスカッションでは、国連環境計画（UNEP）、インドネシア政府、日本の環境省、滋賀県を迎え、今後の持続可能な湖沼管理に向けた人材育成、地域の参加、教育・法制度などが話し合われ、基調講演後に実施した皆様へのリアルタイムアンケートの結果も発表されました。モデレーターのアデリーナ・サントスボルハ ILEC科学委員（フィリピン）は、「地域の声を反映し、持続可能なエコツーリズム、湖沼管理に向けて行動することが重要です。」とまとめました。

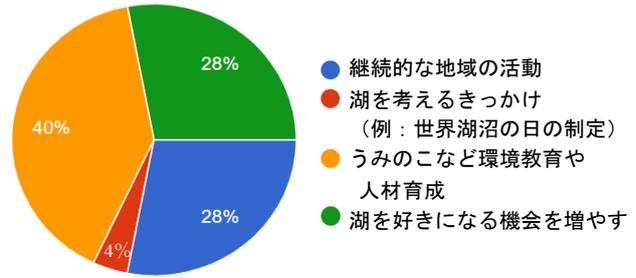


リアルタイムアンケートの結果

Q1. “湖沼の価値”としてあなたが思い浮かべるものは何ですか。



Q2. あなたが考える湖沼の価値を守る・育てる、さらに次の世代につなげるのには何が必要でしょうか。



国際シンポジウム全体総括 <高橋康夫 ILEC理事>

豊かな日本での湖沼管理の経験、特に琵琶湖での経験を共有できました。科学的な知識をベースに、我々の継続的な努力で世界の湖沼をより良くしていけると信じています。



◎展示

琵琶湖博物館ホールにてILECより「湖沼の主流化」、滋賀県より「世界農業遺産 (GIAHS)」と「Mother Lake Goals (MLGs)」のパネル展示を実施した他、別館でも本イベントにご協賛いただいた株式会社日吉 様、株式会社堀場アドバンスドテクノ 様の商品展示ブースを設置しました。



◎イベントのこぼればなし

<琵琶湖の幸に舌鼓！>

昼食時には、コンテスト参加者とシンポジウム関係者の交流を目的とした「琵琶湖の恵を食べよう」を開催しました。参加者達はビワマスやエビ豆などの琵琶湖の食文化を楽しみながら交流を深めました。



<琵琶湖から世界に届け！>

滋賀県内の17の企業・団体から協賛をいただき、琵琶湖から世界に発信した今回のシンポジウムでは、琵琶湖を象った信楽焼の記念バッジを製作しました。6色の記念バッジは、澄水、夕映などの多様な琵琶湖の美しさや価値を表現しており、「湖沼の価値」をみんな未来につなぐ意思を込めています。



◎参加者の声

参加者の皆様よりたくさんの好意的なコメントをいただきました。ご参加いただきました皆様には、再度深く感謝申し上げます。皆様の声（コメントやご要望など）は今後のILECの活動に活かしてまいります。

<コメントの一部をご紹介します>

- 若者の斬新なアイデアが聞けて良かったです。
- 基調講演からたくさんの気づきがありました。
- 国内外の先行事例を聞くことができ勉強になりました。
- 琵琶湖が目の前に広がる会場が良かったです。
- ハイブリッド形式だったので、会場でもオンラインでも同じ投票やアンケートに参加できて一体感を感じられてよかったです。
- 通訳がスムーズで聞きやすかったです。
- 音声途切れて内容が理解できない部分があったのが残念です。
- 視聴者賞も会場で発表の方が良かったと思います。

◎協賛企業・団体様のご紹介（順不同）



新木産業株式会社



日本メンテナンスエンジニアリング株式会社



野村證券



琵琶湖汽船株式会社

株式会社高木造園



長浜観光株式会社



たね也

滋賀県 近江の茶